

### 3. 資金の要らない、失敗しない 遠隔画像診断起業のノウハウ

岩崎 康 有限責任事業組合テラーク

現在勤務医であり、将来遠隔画像診断で起業することを計画中の放射線科医は増加している。

そこで本稿では、遠隔画像診断プロバイダ(会社やグループ)などに属して下請けとしてやっていくのではなく、自分でプロバイダを立ち上げていくやり方を解説する。ただし、初期の段階までの話である。

#### 失敗しないために

起業で失敗する最大の原因は、用意した資金を食い潰してしまうことである。ということは、出費をゼロにすることができれば、資金は減らず、少なくとも失敗はしないことになる。というか、資金などが不要となる。

出費のうち大きなものは固定費である。人件費、事務所代、システム使用料などが最たるもので、こうしたものは極限まで削るべきである。事務所など最初は不要であり、自宅で代用できる。自宅の電話とインターネットだけで営業が可能である。

遠隔画像診断システムは、必然的にクラウド型システムを使うことになる。なぜなら、使わないと支払いは発生しないからだ。人件費も固定費分はゼロにする。つまり、完全歩合制にすれば、実際に払うのは仕事をしてもらった分だけで済む。

クラウド型システムを使えば、読影医を増やしても必要な端末を購入する必要はないし、自宅で勤務してもらえば交通費を払う必要もない。外注費で支払うので雇用関係も発生しない。クラウド型システムを使うことで、人件費さえも変動費のみとなり、固定費をゼロにできる。営業にかかる費用も、後述の方法を使えば限りなくゼロにできる。ゼロにできないのは、事業税などの税金くらいだが、収入が少ないうちは最低限度額だけで済む。

#### 必須の遠隔画像診断システム

クラウド型遠隔画像診断システムと言っても、IaaS (Infrastructure as a Service) レベルのものではなく、SaaS (Software as a Service) レベルのものでないと前述の用途には使えない。IaaS レベルのものは、従来のシステムでデータセンターの部分をクラウドサービスに置き換えただけのものが多く、高価な専用端末を必要とすることは変わらない。このためメリットはない。

一方、SaaS レベルであれば、Gmail や Facebook などの Web アプリケーションを使うのと表面的には同じであり、インターネットにさえつながっていれば、どんなパソコンでも使え、特殊な端末を購入する必要はなくなる。

SaaS レベルのシステムはそんなに種類はないが、イーサイトヘルスケア社のシステム (<http://www.esite-hc.com/>) がこの条件を完璧に満たす。動作が非常に軽く、ビューワの機能も十分で、過去画像もわざわざ検索することなく、タグを切り替えるだけで表示される。イーサイトヘルスケア社のシステムを使うかぎり、先行投資ゼロ、使わなければ料金ゼロ、メンテナンスやバージョンアップ料金も不要なので、導入前、導入時、導入後のいずれにおいても固定費用は不要となる。